

経営比較分析表（平成29年度決算）

山形県 新庄市

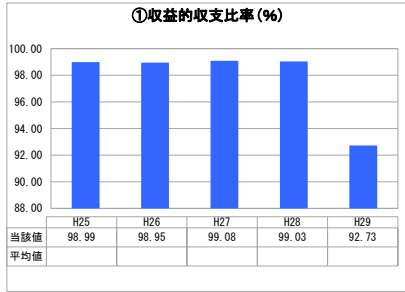
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	6.23	80.80	2,916

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,347	222.85	163.10
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,246	3.44	652.91

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



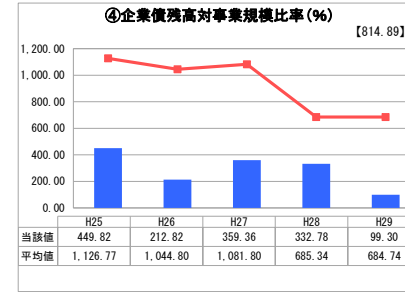
「単年度の収支」



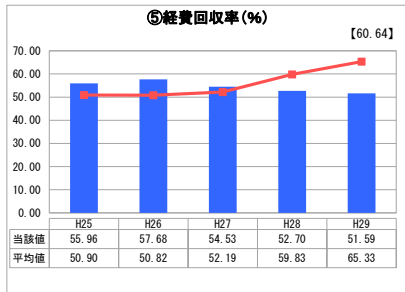
「累積欠損」



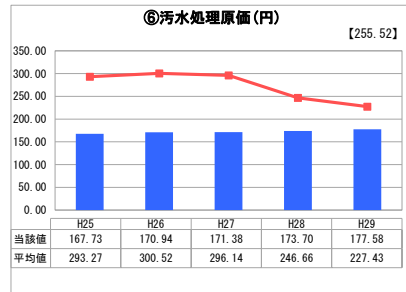
「支払能力」



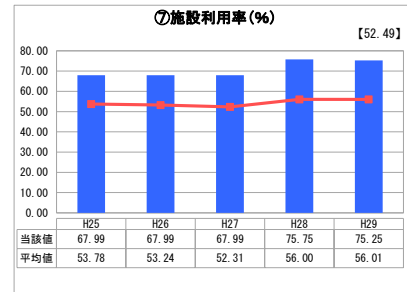
「債務残高」



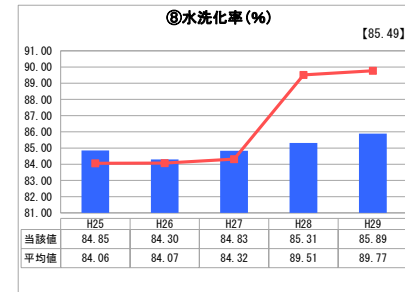
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

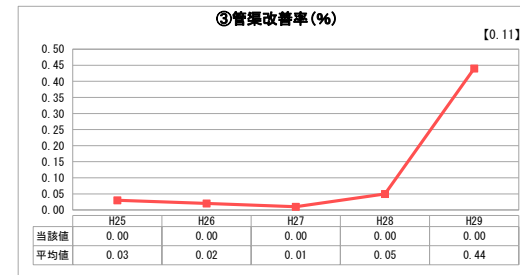
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①総収益は処理区域内人口の減少により、やや減少したが、H28年度比△2.6%とほぼ平年並みである。また、地方債償還金はH28年度比△2,038千円と減少したが、総費用がH28年度比+5,329千円の増加と、総収益に対して総費用が増加したため、急激な落ち込みが生じた。これは、H29年度よりH32年度の公営企業会計の適用に向けた負担金が発生したためである。

②使用料収入はH28年度比でやや減少傾向ではあるもののほぼ平年並みである。それに対して地方債現在高は使用料収入の減少率を上回る早さで減少しているため、低い水準を示している。

③類似団体平均値よりも低い水準を示しており、本市の数値をH25年度～H29年度と比較しても、H26年度は上昇したものの、その後は数値が低下している。今後は処理区域内人口の減少により使用料収入増加が困難であり、さらに低下していくと思われる。

④年々数値が上昇している。これは、有収水量はほぼ平年並みであるのに対して、経年劣化による修繕費の増加に伴い汚水処理費が上昇傾向にあるためだと考えられる。

⑤類似団体平均値より高く良好と言えるが、処理区域内人口の減少により利用率はさらに低下すると考えられる。

⑥類似団体平均より低く、処理区域内人口の減少により水洗化人口も減少している。既に整備事業は終了しているため新規接続はほとんどなく、水洗化率の向上は困難な状況にある。

2. 老朽化の状況について

経年により維持管理費が増加傾向にあるため、効率化を図り持続可能な施設とするため改修等が必要である。更新計画等により管理を行う必要があるが、耐用年数まで至っていないこと、財源確保が困難であるため緊急性のある修繕のみを行っている。

全体総括

処理区域内人口の減少により、使用料収入の確保が困難であることや経年劣化による処理場の修繕費等で、維持管理費が増加傾向にある。そのため、一般会計繰入金に頼らざるを得ない状態が続いている。今後は、使用料の改定及び維持管理費の削減を検討していくが、公共下水道との統合も含め、ハード面、ソフト面の両方で見直しを図っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。